

2024年度事業計画（案）

（2024年1月1日～12月31日）

法人名称 NPO 法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー

1. 事業活動方針

昨年度の活動方針でふれたように、新型コロナウイルスの地球規模における感染拡大後の世界は、国際的な秩序は崩れ去り、世界の各地域で紛争が泥沼化している。（もちろんその一方では、飢餓問題と地球環境の破壊は置き去りにされているが・・・）このように世界状況が大きく変化した背景には、膨張を続けてきたグローバル化が、ついにその限界に達し、「うまみのある辺境」を埋め尽くしてしまったことがあり、先進国による資源の奪い合いは、存在を懸けての内側に向かう争奪戦となっていることを意味している。米国の一強を頂点としたグローバル化には様々な亀裂が入り、経済圏を塊とした対立があらわになっている。またこの対立は、地球を超えて、宇宙空間の既得権の争奪戦や、次期エネルギーの開発競争にも発展しており、まさしく未来に向けての陣取り合戦の様相を呈している。

こうしたグローバルな動向は、社会の在り方や教育にダイレクトに影響を与えてきた。膨張するグローバル化の中では、人は経済的存在の側面が極度に強調され、「豊かさ」は金銭的に計ることができるものに変質し、人のつながりも都市型の仮想空間の中に実体のないものへと拡散された。

学校教育もその目的は、いつの間にか経済界がその都度必要とする人材育成へと変貌してきた。唐突にも思える英語教育の小学校からの導入や、ICT教育の推進などは、まさしくこうした流れを具体的に示したものであり、経済効率と世界と闘える新たな技術の開発こそが、小学校低学年から大学教育まで一貫する「教育の目的」と化してきたのではないだろうか。

現代をこのように俯瞰的に見てみると、こうした社会的変化の激流は、個人個人へ非人間的な大きな圧力を与え続け、私たちは大人も子どもも、自己を語る言葉や大事にすべき価値観を獲得できないまままで過ごしてきていることに改めて気づかされる。

例えば、「女性の生きづらさ」を自己の問題として語るとき、その言葉は自らの内より様々な葛藤を経て、かろうじて形を与えられ、生きづらさの背景にある社会的なるものにむかって投げつけられる。こうした「もがき」の果てに自らの言葉を獲得し、失われていた「己」と少しだけ向き合えることになる。しかし、この作業は並大抵のことではない。ぶつかり、傷つき、逡巡し、長い時間をかけて言葉が内側で紡がれていく。もちろん、この言葉は聞く側の人間にとっても、重い存在感を持つ言葉だ。

「平和」についても同じことがいえる。誰しもが平和の大切さを口にはすれど、それはどれもこれも似た言葉であって、内面をしっかりと潜り抜けてきた言葉ではない。ここでも言葉は奪われ続けてきた。日本軍の加害性には触れることができない教育現場には、やはり政治的な重圧がかかっていることの証であり、それこそ「平和」は奪われてしまっているのだ。「仲間や自分を守るための戦争」はいつの間にか是とされ、武器の

輸出までが始まっている。まさしく日本における「平和」は、虫食い状態のスカスカになっているのだ。今こそ私たちは、この問題にそれぞれが向き合い、言葉を内側から紡ぎだして語り合わねばならないし、そのとき、お互いの言葉は共鳴し、新たなステップへと進む可能性が見えてくるのではないだろうか。平和を守ることは、決して人を殺すことではないことを、私たち自身がまずはしっかりと理解しなければならない。

アントニオ・ネグリとマイケル・ハートはその著書「帝国」の中で、グローバル化する「見えない支配装置」への対抗の可能性として「マルチチュード」を提唱した。マルチチュードとは、権力を持たない個々のネットワークの広がりのことである。

私たちが葛藤の果てに言葉を獲得し、その言葉が共鳴する姿は、まさしく「マルチチュード」と重なり合うものではないだろうか。

もちろん「語る場」は「女性の生きづらさ」や「平和」についてだけではない。学校現場や家庭の中でさまざまにぶつかっている課題が、それぞれの事業で取り上げられることを期待する。本年度は、Ed.ベンチャーの存在をかけて、「語る場」を守り育てる年になるのではないだろうか。

2. 事業内容

学校支援事業 ①理論学習会

事業概要	<p>昨年度は「捨てられない学校に変わっていくために」をテーマに、参加者との議論を通して、学校が置かれている状況や学校が抱える課題を整理した。子どもや保護者から期待されなくなった学校を改善するためには、子どもを取りまく課題を捉え、教師自身が試行錯誤しながら、自ら変化し続けていくことが必要である。</p> <p>今年度は「学校だからこそできること」は何かを考えていく。具体的には次の2点である。</p> <p>① 競争を前提とした戦後の学力観を問い直す。違いを比べて優劣をつけるのではなく、一人ひとりの子どもがもつ個性を尊重して、人との関わりの中で学び合いをするには、どのような方法があるのか。今後の学校の在り方を模索する。</p> <p>② 世界で戦争が絶えない今、子どもたちに戦禍を想像させたり、平和を追求したりすることなど、戦争のない未来を創っていくために、何を伝え、何を一緒に考えていくべきか。教育活動の中でできることを考える。</p> <p>参加者と議論することを通して、学校が置かれている状況や課題を整理するとともに、今後の学校の在り方を探っていきたい。</p>
事業目標	教育現場の状況を討論の中で分析し、客観視することで、今後の学校や教員のあるべき方向性を模索する。
担当者	●活動代表（理事）清水美希 柴田濤 村本綾

開催日時	<p>テーマ『学校だからこそできること』を探して</p> <p>4月27日(土) 13:30～15:30 「戦後の学力観における学校現場の限界」</p> <p>6月15日(土) 13:30～15:30 「子どもが戦争と平和への理解を深めるためには」</p> <p>8月24日(土) 13:30～15:30 「人との関わりの中で学び合う学校から学ぶ①」</p> <p>10月26日(土) 13:30～15:30 「人との関わりの中で学び合う学校から学ぶ②」</p> <p>12月14日(土) 13:30～15:30 「学校が生まれ変わるために、新たな学びの形を考える」</p>
場所	大和市シリウス・オンライン (Zoom) (同時開催)
対象者	教員・学生・一般
収入予定金額	12,500円 (参加費 12,500円)
支出予定金額	5,500円 (賃借料 5,000円、印刷製本費 500円)

学校支援事業 ②授業研究会

事業概要	<p>2022年度で終了した事業ではあるが、昨今の若手教員の悩みに触れるにつけ、実際の教室で起きている出来事を語ってもらいながら、学級経営・授業実践へとつなげていく道筋を探っていく必要を痛切に感じる場面が多く、以下を柱として再事業化する。</p> <p>① 教室空間で起きていることを語る</p> <p>「教師が子どもに教える」ということに注目する教育実践は、教師が何をしたかばかりに思考が行き、子どもどうしがどのような関係にあるのか、教師自身と生徒の関係はどのようになっているのか、その関係の中で何が起きているのかを見えなくしたりする。何をしたのかではなく、何が起きているのかを語ることで、日常的にも、教師と子どもの関係、子どもどうしの関係に注目した観察ができるようになることを目的とする。</p> <p>② フル・インクルージョンに向けた実践の阻害要因を検討する</p> <p>上記の語りの際に、どのような教室空間を理想とするかによって、何を語るのかという内容は自ずと変わってくる。そのため、目指す教室空間のイメージは「フル・インクルージョン」とし、それに向かって実践を試みた際に、何が阻害要因となっているのかを検討していく。阻害要因は、第一に教師の力量によるものが考えられるが、第二には学校の同僚性や管理職の姿勢なども阻害要因になることも考えられる。さらに第三には、日本社会の「教育なるもの」に関するイメージを背景として、保護者を含む社会状況も阻害要因となることが考えられる。これらの阻害要因に、どのように対峙するのか、</p>
------	---

	このあたりの具体的な方策を検討することを目的とする。 方法は、原則対面方式（遠距離の場合、オンライン可とする）で、年間6回を計画し、各回レポーターを設定し、上記①②について語ってもらう。それに絡めながら、参加者の実践についても語ってもらい、参加者それぞれが①②の語りを深めていく。
事業目標	どのような子どもたちも排除されずに学べる教室空間の形成を目指して、実際の教室空間で起きている事柄を語ることを通して、阻害要因のあぶり出し、そうした要因との対峙の方法を検討していく。
担当者	●活動代表（理事）清水睦美
開催日時	① 2月10日（土）17:30～19:30 ② 4月27日（土）16:30～18:00 ③ 6月15日（土）16:30～18:00 ④ 8月24日（土）16:30～18:00 ⑤ 10月26日（土）16:30～18:00 ⑥ 12月14日（土）16:30～18:00
場所	大和市シリウス・オンライン（Zoom）（同時開催）
対象者	教員・学生・一般
収入予定金額	15,000円（参加費）
支出予定金額	6,500円（賃借料6,000円、印刷製本費500円）

学校支援事業 ③スタディツアー（今年度活動休止）

学校支援事業 ④外国人の子ども理解のための学習会

事業概要	<p>① 学習会</p> <p>大和市には、数多くの外国にルーツのある子どもたちが暮らしている。しかし、来日経緯や家庭の状況、普段子どもたちがおかれている環境を知る機会が極めて少ない。そこで、学習ボランティア希望者や、学校教員、一般市民を対象に外国人の子どもたちが置かれている状況や課題を理解し、様々な教育現場での支援に役立てていくために、学習会を開催していく。</p> <p>4月の「外国にルーツのある子どもたちの来日経緯を知る～自分史作りがもたらす可能性～」は、「平和の追求」から切り離せないテーマにある。その子どもたちのルーツをたどると世界情勢（戦争や内戦、政治的抑圧など）、日本国内の動向と結びつくことがほとんどである。しかし、日本の学校において、そのことは外国にルーツのある子どもたちに語られる場面や備わっていく知識として、意図的に取り組まなければ知らずに一生を終えてい</p>
------	--

	<p>く。「なぜ自分がここにいるのか?」「なぜこんな思いをしているのか?」「親や親族は何を背負ってきたのか?」「自分のルーツを語り継ぐには?」自分史作りの可能性を紐解く学習会にしていきたい。</p> <p>また8月の「外国人の子どもの対話による自己形成～国際教室の実践を通して～」では、国際教室での対話的実践経験のある小中学校の国際教室担当に事例提供をしてもらう。雑談ともいえる他愛もない対話が、記憶や言語の発達、自己形成にとっても関係しているのではないか?国際教室で何をしたらいいかわからないという人に限らず心配な児童生徒がいるけれど、その聞き手役としての存在が大切なのではないか、ということを実例をもとに学習会を開催する。</p> <p>②事例研究会</p> <p>外国にルーツのある子どもたちの具体的な事例を学校の先生方に提供してもらい、協議を通して、かれらの背景にある様々な事情や問題を読み解く力をつけていこうという目的で、月1回程度開催する。外国人の子どもの支援するうえで、知っておくべき知識についても学習する機会も設けたい。</p>
事業目標	外国人の子どもの現状や課題を理解する場、外国人の子どもに関する専門的な知識を学ぶ場を企画運営する。
担当者	●活動代表（理事）西岡歩 ○スタッフ 篠原弘美
開催日時	<p>① 4月23日（火）19:00～21:00 「外国にルーツのある子どもたちの来日経緯を知る ～自分史作りがもたらす可能性～」 講師：日本女子大学 教授 清水睦美氏</p> <p>8月6日（火）13:00～16:00 「外国人の子どもの対話による自己形成～国際教室の実践を通して～」 講師：大和市小学校教諭 小林加奈氏 座間市中学校教諭 藤木仁美氏</p> <p>② 月1回（1月2月4月8月 12月は除く）全7回 水曜日 19:00～21:00 3・6・9・11月 土曜日 13:30～15:30 5・7・10月</p>
場所	大和市シリウス・オンライン（Zoom）
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	12,000円（参加費7,000円、受取寄付金5,000円）
支出予定金額	19,737円（賃借料4,600円、諸謝金11,137円、消耗品費4,000円）

学校支援事業 ⑤インクルーシブな社会を目指す学習会

事業概要	<p>これまでの学習会で、学校現場がインクルーシブになっていかない現状や原因について考えてきた。学校や既存の枠組みを変えるためには、教師自身も変化をしていくことが必須である。学校現場で“インクルーシブ”を実現するために何ができるのだろうか。</p> <p>今年度は、子どもを出発点として、学校・教師がどう変わることができるのか、実践を通して考えていきたい。具体的には、以下の2つをテーマに事業を展開する。</p> <p>一つ目は、子どもの声を聴き取る「子どもアドボカシー」について学ぶことである。日々子どもたちと生活する中で、どれだけ子どもたちの声に耳を傾けられているであろうか。また、子ども第一と思いながらも、結局は大人の都合が優先されているということはないだろうか。</p> <p>子どもアドボカシーを通して、子どもたちの自発的な声を聴くことの重要性、その工夫について学び、これまでの接し方を振り返りながら、学校に足りないこと、学校だからできることに目を向ける。そこから、今、自分自身にできることを具体的に考え、実践に移し、学校がどう変わることができるのか検討したい。</p> <p>二つ目は、学校現場におけるインクルーシブの実際を知り、インクルーシブな学校の実現の具体的な方策について探ることである。</p> <p>小・中学校では、「保護者(生徒本人)が障害を認めたか否か」という障害の有無による学籍の違いが、支援級と通常級という分離教育の形として残っている。すべての子どもが同じ場所で学ぶというインクルーシブの視点を持つために、学校のきまりや職員の配置、そして、教員の意識をどのように変化させていけばいいのか。クラスでの事例研究をとおして学校におけるインクルーシブの実現のための手立てを参加者と一緒に考えていきたい。</p> <p>さらに、神奈川県に18校ある、知的障害をもつ生徒とそうでない生徒が学ぶ“インクルーシブ教育実践推進校”での取り組みから、学校における“フルインクルーシブ”の可能性、それを阻む課題・障壁は何なのか、身近に引き寄せて考えていきたい。</p>
事業目標	<p>子どもの声を出発点にすることで、どのように教師・学校が変わることができるのか。実践を通して考え、インクルーシブな学校・社会の目指すべき方向を探る。</p>
担当者	<p>●活動代表(理事) 森尾宙 山口貴子</p>
開催日時	<p>① 5月8日(水) 19:30~21:00 学習会:「『子どもアドボカシー』について ~子どもの声をくみ取る意味と学校現場でできること~」 講師: NPO 法人子どもアドボカシーをすすめる会 TOKYO</p> <p>② 6月4日(火) 19:30~21:00</p>

	<p>学習会：「インクルーシブ教育実践推進校から見るインクルーシブ教育のこれから」</p> <p>講師：県立綾瀬高等学校長 竹本弥生氏</p> <p>③ 7月4日(木)、10月10日(木)、11月28日(木) 19:30～21:00</p> <p>事例研究会：中学校におけるインクルーシブの実践</p> <p>報告者：座間市立中学校教諭 森尾 宙氏</p> <p>報告者：座間市立中学校教諭 藤本 健氏</p> <p>④ 12月6日(金) 19:30～21:00</p> <p>実践報告：『子どもアドボカシー』学習会を経ての実践</p>
場所	大和市シリウス・オンライン (Zoom) (同時開催)
対象者	学校関係者・学生・一般
収入予定金額	18,000 円 (参加費 18,000 円)
支出予定金額	46,011 円 (賃借料 9,600 円、諸謝金 33,411 円、印刷製本費 1,000 円、消耗品費 2,000 円)

外国人支援事業

⑤ 子どもの居場所・学習支援教室(エステレージャハッピー教室)

事業概要	<p>外国にルーツのある子どもの学習の遅れは日本語能力の不足が原因となっている場合があるため、日本語能力を伸ばすことを意識しつつ、丁寧な説明を加えながら、学習内容の理解を深めていくことで、学校における学習に主体的に取り組むことができるように、それぞれの子どもの寄り添った形での学習支援を行う。上記の支援を行う中で、子どもたちが自らの経験を自由に語る場をつくり、当教室がかれらの居場所となることを目指す。</p> <p>また、今年度は登録児童生徒の増加を図る工夫をする。</p> <p>① 学習支援</p> <p>学習や遊びを通して子ども同士の対話を促し、それぞれの関わりが深まるよう意識しながら支援する。</p> <p>小学生に対しては学校の宿題を中心とした学習支援を行う。</p> <p>中学生に対しては、学校の授業の理解を深めることを意識して学習支援を行う。普段の学習支援の他に定期テストや高校受験の支援も行う。さらに中学2,3年生を主な対象として、教室の先輩から進路に関する経験やアドバイスを聞けるような機会を設ける。</p> <p>② 語り合いの場づくり</p> <p>子どもたちが自らのルーツについて調べたり発表することで、自分のアイデンティティを確認する機会を設ける。さらに子どもたちが学校で経験したことを語り合うことで、かれら自身の経験を共有できる時間とする。</p>
------	---

	<p>③ 母語教室 子どもたちの母語の維持、獲得のために、母語話者の講師による母語教室を定期的に開催する。</p> <p>④ 保護者面談 定期的に面談期間を設け、教室での様子を保護者に伝えるとともに、家庭や学校での様子を聞く。また、困りごとがあれば相談に乗る。</p> <p>⑤ 教室運営 ・登録制（登録料として1か月100円を徴収） ・3学期制（1学期4～8月、2学期9～12月、3学期1～3月） ・チラシの作成・配布（4月大和市及び周辺地域の学校その他関係機関）</p> <p>⑥ スタッフの育成 スタッフ・ミーティングの充実をはかるとともに、外国にルーツがあるスタッフに対しては必要に応じて母語教室を開催する。</p>
事業目標	外国にルーツのある子どもの居場所作りと学習支援を行う。さらに家庭や学校の様子を聞いて可能な範囲で支援を行い問題の解決を図る。
担当者	<p>●活動代表（理事）福島聖子</p> <p>○スタッフ 角替弘規 篠原弘美 保坂克洋 根岸佐織 横矢玄 高島ヒトミ 滝川舞 ジェマイマ・ルース・アゴコプラ 佐藤ひより 奥山奈希沙 津波りえ 井上哲夫 河村優花 ビジュアル・アイコ 藤原ケイト 相模女子大学ボランティアサークル「ミント」</p>
開催日時	<p>① 毎週土曜日 10:30～12:30</p> <p>② 毎週土曜日 10:30～12:30</p> <p>③ 原則月1回開催</p> <p>④ 4月・8月・12月</p> <p>⑥原則月1回開催</p>
場所	大和市立林間小学校 大和市シリウス 大和市ベテルギウス等
対象者	大和市及び近隣在住の外国にルーツがある小学生・中学生
収入予定金額	258,700円（県中央労福協共済金250,000円、参加費8,700円）
支出予定金額	345,656円（給与手当190,820円、賃借料72,500円、諸謝金53,456円、旅費交通費6,880円、印刷製本費2,000円、消耗品費10,000円、保険料10,000円）

子ども支援事業 （該当事業なし）

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑦教育相談

事業概要	<p>学校・教師・行政・子ども・保護者・外国人当事者・支援団体等の各種相談に応じることを目的とし、今年度は以下を行うこととする。</p> <p>①(2019年より継続)「すたんどばいみー基金」から移管された当事者相談事業：4名(S、E、R、H)</p> <p>③ 多言語若手通訳派遣事業</p> <p>A 通訳登録(6名予定)</p> <p>B 通訳派遣(Aの登録者の派遣)</p> <p>③必要に応じて新規相談を受け付ける。</p>
事業目標	相談事業を通して、ニーズの把握と必要な事業の展開の仕方を検討する
担当者	<p>●活動代表(理事) 松永雅文 林幹也</p> <p>○スタッフ 清水睦美 篠原弘美</p>
開催日時	<p>①該当者4名(S、E、R、H)に対して随時</p> <p>②随時必要に応じて行う。また、必要に応じて研修機会を設ける。</p> <p>③必要に応じて随時</p>
場所	①～③ 必要に応じて適宜設定
対象者	相談者
収入予定金額	0円
支出予定金額	110,224円(諸謝金100,224円、雑費10,000円)

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑧普及啓発活動

事業概要	<p>学校支援、外国人支援、子ども支援の必要性を広く市民に呼び掛けるとともに、当法人の活動理念と活動を知ってもらうための活動を以下の8部門に分けて展開する。</p> <p>①広報誌「Ed.ベンだより」の作成と配布</p> <p>②ホームページの更新・管理・運営</p> <p>③2024年度版パンフレットの作成と配布</p> <p>④特定のテーマ(a.脱/反原発 b.女性 c.平和教育)に関する情報発信</p> <p>⑤資料・書籍の管理販売</p> <p>⑥他機関・他団体との関係構築</p> <p>⑦渉外(研究者対応を含む)</p> <p>⑧会員に対する情報提供</p>
------	---

事業目標	社会に対して当法人の理念と活動を紹介しながらその位置づけを明確にし、社会的に弱い立場にある人々に対する支援の重要性を普及・啓発する。 これまでの活動テーマに加え、2024年度は「平和教育」に焦点を当てた情報発信に留意する。
担当者	●活動代表（理事）角替弘規 ○スタッフ 池田喬 清水睦美
開催日時	①Ed. ベンだより発行：2・4・6・8・10・12月（年6回）（うち、数回は平和教育に関わるテーマを扱う。） ②ホームページ公開（随時更新）（理事推薦本のテーマを「平和」を中心としたものとする。） ③2024年度版パンフレット配布：4月上旬 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧は随時
場所	当法人事務所またはオンライン（Zoom）
対象者	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ 一般、⑧会員
収入予定金額	50,000円（受取助成金）
支出予定金額	340,650円（賃借料円、印刷製本費 74,000円、通信運搬費 184,650円、消耗品費 42,000円、業務委託費 40,000円）

学校・外国人・子ども支援に関する普及啓発事業

⑨ 教育講演会

事業概要	<p>2023年度の当法人活動方針に掲げられた「平和の守り方」を受けて、2024年度教育講演会は、東京女子大学准教授・竹内久顕氏を講師に迎え、「平和教育」をテーマに開催する。日本国内の動向、世界情勢など、平和の枠組みが大きな転換点を迎える中、平和な未来に向けて、子どもたちに何を伝えていかなければならないのか、参加者とともに考える講演会を開催する。</p> <p>講演会に向けて、「平和学習に関するセミナー」を2月に2回開催する。1日目は、パレスチナの子どもたち取材したドキュメンタリー映画の上映会を行う。2日目は、映画視聴を受け、現在の世界情勢を踏まえて、学校で平和教育を進める意義を話し合う学習会を開催する。</p> <p>2日目の2月10日のセミナーでは、2023年度教育講演会にパネラーとして参加した、大学院生の論文発表に基づく「女性の生きづらさ」に関する学習会を併催する。</p> <p>また、後半では、2025年度教育講演会に向けて、テーマ検討など、準備を進めていく。</p>
事業目標	現在の社会状況を踏まえて、教育講演会で扱うべきテーマを検討する。それを踏まえて、参加者に問題提起し、互いに議論する教育講演会を企画・運営

	する。
担当者	●活動代表（理事）池田喬
開催日時	○平和学習に関するセミナー第2回（第1回は2023年12月に開催） 2024年2月4日（日）13:30～15:30 富士見文化会館101号室 映画「ぼくたちは見たーガザ・サムニ家の子どもたちー」上映 ○女性の生きづらさに関する論文発表・平和学習に関するセミナー第3回 2024年2月10日（土）13:30～17:00 ○教育講演会 2024年2月23日（金）13:30～17:30 「未来への責任ー平和教育を考えるー」 講師：東京女子大学准教授 竹内久顕氏 ○2025年度教育講演会に向けての検討会 2024年夏以降、計4回を予定
場所	富士見文化会館・大和市シリウス
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	74,000円（参加費54,000円、受取寄付金20,000円）
支出予定金額	117,521円（賃借料40,050円、諸謝金33,411円、印刷製本費22,300円、 消耗品費20,300円、旅費交通費1,460円）

⑩ 法人の事業円滑実施のための活動

事業概要	法人の事業の円滑実施のために、次の3部門の活動を行う。 ① 総会・活動報告会・事務局会議 ② 会計 ③ 外部からの依頼に対応
担当者	●活動代表（理事）篠原弘美 橘川眞知子 ○スタッフ 内藤順子 松永雅文 清水睦美 角替弘規 池田喬 （会計）清水睦美 篠原弘美 小西永里子
開催日時	① 総会 2024年2月23日（金）10:30～11:30 活動報告会：原則奇数月、会計年度末臨時 事務局会議：原則偶数月 ② 会計処理：原則月1回 会計確認（締め）：年3回（1月、8月、10月） ③ 必要に応じて
場所	富士見文化会館、当法人事務所、部室、オンライン（Zoom）
対象者	法人内会員
収入予定金額	574,000円（受取会費56,200円、雑収益12,000円）
支出予定金額	289,566円（通信運搬費102,876円、消耗品費2,000円、

	水道光熱費 42,300 円、租税公課 18,900 円、保険料 4,490 円、 諸会費 5,000 円、雑費 114,000 円)
--	--